

OVER35 ボールルーム部門出場

森川豊則・鈴木悠夏組

まず始めに、今回のブラックプール渡航と言う素晴らしい機会を頂いたことに感謝したいと思います。ブラックプールでの滞在日数は3日間と言う慌ただしスケジュールではありましたが、とても楽しく、刺激的な時間を過ごすことが出来ました。簡単ではありますが、私たちが出場したシニアスタンダード戦と道中について少しお話したいと思います。

競技会前日朝に関西国際空港を出発し、同日夕方にマンチェスター空港に到着。リーダーは初めてのヨーロッパに初めての長時間フライト。海外自体が経験薄にもかかわらず、空港からは約1時間の電車移動と、なかなかストレスがかかる行程でした。しかも当日は想定外の鉄道ストライキ。労使交渉が多いとの話も目にしていましたが、まさか自分の身に降りかかるとは……。駅員にしつこく確認し、途中駅プレストンでバスに乗換え、当初予定からは遅れましたが、何とか無事ブラックプールに到着することが出来ました。到着時間は19時と夕刻過ぎの時間でしたが、外が明るかったのが印象的でした。

試合当日は生憎の雨の中、B&Bでセットした髪型を守りながら夢の舞台 Winter Garden に到着。が、フロアが分からず、パンフレット売り場も分からず、右往左往。異常空間に浮足立ち、紳士的な現地の皆様に助けられながら何とかフロアにたどり着くことが出来ました。2階バルコニー席後ろに荷物を置き、上から会場を見下ろすと、写真で見たことある！まさにそんな風景で、改めてブラックプールを実感しました。

当たり前ですが、周りは海外の選手ばかり。踊る前の雰囲気、本当にうまそうに見えるので、多少ひるむところはあったのかもしれませんが、逆にいつもと違い知らない選手ばかりなので、遠慮することなく今出来る最大限では望めたのではないかなと思います。予選が始まるまでは、良いパフォーマンスが出来るかに集中していましたが、一度フロアに入ると、これをしなきゃ、あれをしなきゃといった考えが吹っ飛び、世界中の競技ダンス愛好家たちが最高にダンスを楽しんでいる中で、一緒にダンスを楽しむことが出来ました。アマチュアと言う枠の中で、35歳を超えてもダンス熱が冷めない人たちがこの舞台に集まったん

だなど。

はた目から見れば、私たちの踊りはベストパフォーマンスとは言い難かったかもしれませんが、ダンスを踊る喜び

を改めて学ばせていただきました。フロア横でのナンバーコールを待つ緊張感、呼ばれた時の喜び、呼ばれなかった時の落胆、全ての選手が本気の臨場感、出場した選手にしか感じられなかった部分ではないかと思えます。呼ばれた時は嬉しく、会場の雰囲気や、音楽を楽しむことが出来ました。本当に楽しい競技会で、曲もあつという間に終わってしまいました。もっと踊っていたかったな。

5月までの数か月間はあつという間で、今までと違うウォーミングアップやトレーニング？を取り入れたり、長編の長い競技会場のシミュレーションをしたり、普段と違う取り組みも勉強になりましたし、現地では海外の選手がもつ雰囲気や競技会場での予期せぬアドバイスも今後の糧に出来ました。結果に満足が出来た訳ではありませんが、これからの私たちのダンスに大きな影響と収穫を得られた、そんな競技会だったと思います。

最後になりましたが、ブラックプールの後押しをしていただいた JAL の皆様、遠いところ会場まで応援ありがとうございました。また、海外へのチャレンジを進めてくれた競技仲間、応援して頂いた皆様、とても貴重な経験となりました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

